

渡 辺 賢

首都大学東京健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科



昨年4月より、首都大学東京にて研究・教育活動を始めました。

看護、放射線、理学療法、作業療法の4学科の学生に生理学の知識を十分に習得させること、そして医療技術者として常に体のことわりを考えることのできる力を持つよう育むことが、健康福祉学部の生理学担当としての私に与えられたつとめです。

しかし、入学選抜法の多様化により入学生の基礎学力格差は拡大し続けるのに、カリキュラム前倒しや教養科目履修機会の減少のため、その基礎学力格差を入学後になかなか是正できない、という現状があります。いかに様々な学力を持った学生に対して効率よく効果的に生理学の学部教育を行うか悩むのですが、実際には大して悩む暇なく講義・実習が入ってきます。幸い学生諸君は真面目で力を持っており、私が努力するだけ応えてくれます。彼らと接することで勇気と元気をもらいつつ、教育に走りまわっています。

研究面では、平滑筋収縮フィラメント構造リモデリングによる収縮弛緩サイクルの制御に関する実験を再開したところです。教育以外に会議や書類書き、最近では消費電力節減などにより、実験時間は大幅に減りました。又、貧弱な生物系実験設備、研究支援の不備等、こちらも問題が山積していますが、共同研究者の皆様のご協力で、SPring-8や高エネルギー加速器研究機構の放射光実験施設での平滑筋X線回折実験を年に数回実施できております。従来の研究を継続すると共

に、今後は他の手法も駆使して平滑筋細胞における収縮フィラメント構造のダイナミクスを明らかにしたいと考えています。

大学院人間健康科学研究科では、全身生理機能をはかる研究が様々に行われており、設備・装置等もそれなりに揃っています。又、首都大学東京全体では、様々な視点から生命活動解明に向けた研究が展開されています。そこで、学内の皆様のお力添えも頂きながらまずは全身レベルの、そして将来的には更に様々なレベルから平滑筋の動きを捉え、臓器運動メカニズムの全体像解明、という今までより一步高いところをめざして研究・大学院教育活動を進めたい、と考えております。内臓の動きにご興味をお持ちの方、是非一緒に研究してみませんか。

略歴

- 1962年2月 東京生まれ
- 1986年3月 東京慈恵会医科大学卒業
- 1986年4月～2000年3月
東京慈恵会医科大学 第一生理学教室（現分子生理学講座）
- 2000年4月～2010年3月
東京医科大学 生理学第一講座（現細胞生理学講座）
- 2010年4月～
首都大学東京 健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科